

．学校の概要（平成15年4月現在 実施計画書から転載可）

鳴門教育大学学校教育学部附属中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	4	4					12	21	
児童数	156	158	156					470		

．実践研究の概要

1．主題（テーマ）

自らの学びをひらく教育課程の編成
生徒一人ひとりのよさを伸ばす評価のあり方

2．内容と方法

(1)実施学年・教科（選択した理由を付すこと）

(例)5年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため）

6年生国語（学校として、当該教科に関する研究実績があるため）

1年生 必修教科 総合的な学習
2年生 必修教科 選択教科 総合的な学習
3年生 必修教科 選択教科 総合的な学習

学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるとともに、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえることが必要と考え、学校として研究を進めてきたことと、研究実績があるため）

(2)年次計画

平成
14
年
度

テーマ 自らの学びをひらく教育課程の編成

生徒一人ひとりのよさを伸ばす評価のあり方

仮説

「求異型の授業」を展開することで、生徒の主体的な学習を促し、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」と「個性を生かす教育の充実」が図れる。

研究内容・方法

「基礎的・基本的な内容の確実な定着」を図るために「目標に準拠した評価（評価規準を基にした評価）」を中心に研究する。

- ・必修教科の内容のまとめりごとの評価規準表を作成し、生徒の学力評価を確実にを行い検証する。

評価規準作成の視点として次の3点をふまえた。

- ・学習指導要領に示された各教科の目標及び内容
- ・指導要録に示された各教科の観点及びその趣旨
- ・各教科の年間指導計画

鳴門教育大学教員による授業実践（数学、理科、技術）

週に1時間のL・F（Long F Time）を設定し生き方を考える。

学校外の研究者の講義（英語、理科、数学）

総合的な学習の通知表の作成

平成
15
年
度

テーマ 自らの学びをひらく教育課程の編成

生徒一人ひとりのよさを伸ばす評価のあり方

仮説

選択教科において課題解決的な学習を取り入れることで、生徒が伸びやよさを自覚・再認識し、次の学習への意欲も高まり学力向上につながる。

研究内容・方法

課題解決的な学習は、これまで身につけてきた知識や技能などが相互に関連づけられた総合的な学習である。このような学習においては、生徒の学力を必修教科の4観点（5観点）に振り分けてとらえるよりも、学習場面ごとに総合的に見ていきたい。

選択教科における評価の観点を設定し評価規準を作成し、各選択教科でつけさせたい力をつけ、伸ばしていくための授業を設計実践していく。

平成
16
年

テーマ 「問う力」を鍛える授業

仮説

「問う力」とは、学習内容や学習方法を習得するに当たっての具体的かつ本質的な問いを発する力である。この「問う力」を鍛えること

度

で、生産的なコミュニケーションが交わされ、学習内容や学習方法に対する理解や認識を深めることができるのではないか。

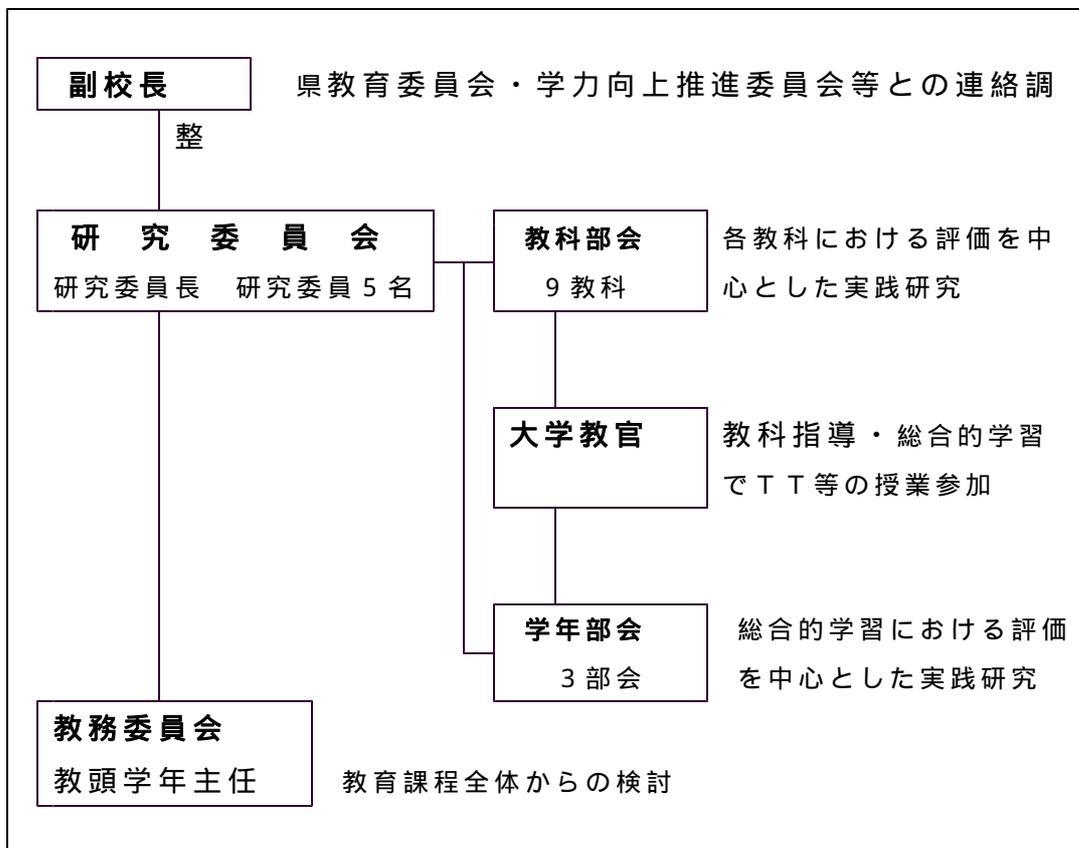
研究内容・方法

- 各教科で定義された「問う力」を鍛える授業
- 「問う力」を鍛える授業での評価のあり方
- 問う力を鍛えるための資料作成

(3) 研究体制

(例)・フロンティア事業に関する実践研究組織図

・ 委員会 (メンバー)



・平成15年度の成果及び課題（可能な限り客観的なデータを示す。例：学力調査の平均点が 点上昇、××の内容について理解度が %上昇 など）

成果

各選択教科における個人内評価の工夫や個人カルテの作成

L・F (Long F Time) の設定

週1時間の全校集会や学年集会で生き方を考える時間

大学の教職員や本校出身の有識者など、いろいろな分野の方に講師を依頼し、専門的な内容やものの見方・考え方に関する内容、生き方に関わる内容などについてミニ講演を実施した。教師ではなく、違った立場の方々の話を聞くことを通して、さまざまなものの見方や考え方、生き様を知るとともに、総合的に判断し生きていく力の育成を図っている。

鳴門教育大学教員による授業

大学教員による授業を数学、理科、技術・家庭の3教科で実施した。

数学・・・3年選択数学（図形）5時間

理科・・・3年選択理科（飛ぶ種子の秘密）22時間

技術・家庭科・・・必修技術分野、3年選択技術分野（情報とコンピュータ）

大学教員の指導で、より専門的な内容の理解が進み、学習意欲の向上がみられた。また、大学教員によるアドバイスを参考にすることにより本校教官自身の知識や理解も深まった。

実践例 大学教員による選択理科授業 22時間

「種子の子孫を残す戦略」・・・2時間

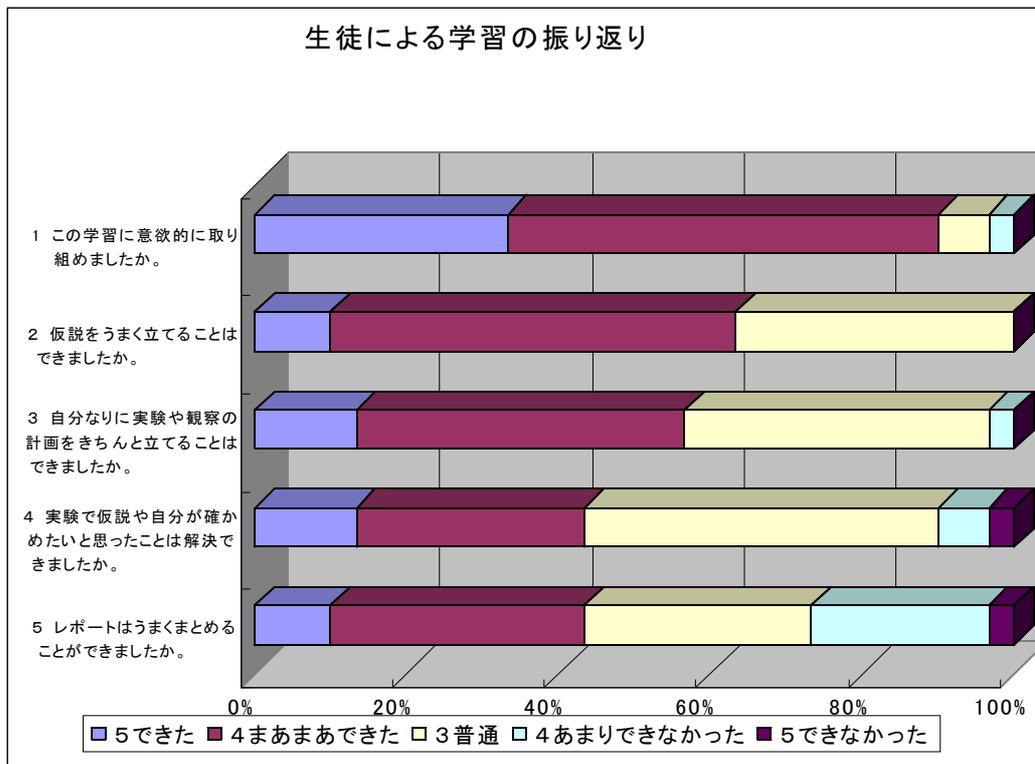
「タンポポの綿毛の滞空時間」・・・5時間

「羽根のついた種子の飛行能力」・・・9時間

「いろいろな種子の散布方法」・・・2時間

「研究発表会」・・・4時間

「理科の学習（22時間）」授業後の生徒の振り返り



「飛ぶ種子の秘密」を終えての生徒の振り返りを見ると学習への意欲について

は大変高い値がでており、「仮説，実験，修正」を繰り返す学習と今回の教材が生徒の心をとらえていたことがわかる。このように意欲的に学習に取り組めることが学習には最も必要なものと思われる。

選択教科増やすことによる小集団学習の実現
3年（8教科），2年（9教科 11コース）

学校外の研究者の講義・授業研究会（英語）

- ・「私が見た日英の中学生」 10月23日
四国大学 講師 フェネリー マーク 先生
- ・「私が見た日英の中学生の学習と生活」 11月13日
木沢中学校 英語指導助手 ジェフリー ホラー 先生
- ・「世界に通用するコミュニケーション能力」 12月8日
松山東雲女子大学 教授 松本 達也 先生

課題

- ・指導者の確保
- ・大学教員の積極的な参加を得るためのカリキュラム作成と時間確保
- ・本校の教科・総合的学習の年間指導計画と大学のカリキュラムの調整
- ・全教育活動を通して学力向上を図るための共通理解の時間

学力把握のための学校の取組について

（例：定期的な学力調査の実施（年1回）等）

- ・各学年、各教科の題材ごとの評価規準の作成と評価
- ・総合的な学習の通知表「わたしの学び」の活用（個人のよさや伸びの把握）
- ・定期テスト、実力テストの実施
- ・授業前後の生徒の意識調査
- ・総合的な学習の通知表「わたしの学び」の評価

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

・研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、テーマ、対象、予定のものについては参加方法）

・HP作成等の工夫の実績及び今後の予定（<http://www>・・・）

説明会

日 時 平成15年4月20日（日）

場 所 鳴門教育大学学校教育学部附属中学校

テーマ 学力向上フロンティア事業推進校としての特色ある教育活動

対 象 保護者

研究発表会

日 時 平成15年6月3日(火)
場 所 鳴門教育大学学校教育学部附属中学校
テ ー マ 自らの学びをひらく教育課程の編成
生徒一人ひとりのよさを伸ばす評価のあり方
選択教科における評価のあり方について研究協議
対 象 中学校教員、大学教員、学生、院生、保護者、本校OB

(予定)

説明会

日 時 平成16年4月
場 所 鳴門教育大学学校教育学部附属中学校
テ ー マ 附属中学校の教育
教育課程編成の方針、学力向上と特色ある教育活動
対 象 保護者 学校評議員

研究発表会

日 時 平成16年6月1日(火)
場 所 鳴門教育大学学校教育学部附属中学校
テ ー マ 「問う力」を鍛える授業
対 象 中学校教員、大学教員、学生、院生、保護者、本校OB、地域住民

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無